

付編 小松市内粘土室墳出土土器

本編は、過去に小松市内で調査された、所謂箱形粘土槨（南加賀型木芯粘土室）を内部主体とする古墳の出土土器を再実測により集成したものである。一部、主体部の異なるもの、あるいは不明のものも、関連性を重視して掲載している。また、実測は、小松市立博物館においてほぼ完形状態で保管されているものに限った。

いずれの調査例も古く、保管状況も良好ではないので、検討余地を多分に残しているものが主体を占めている。古墳との照合が不明確なものについては、その資料的価値が半減するものと思われる。しかし、小松市の6世紀代古墳出土資料の大半が提示されていないという状況は非常に憂慮すべきことで、あえて、保管上混乱を生じているものも含めて再掲載することにした。今回掲載対象から除外した、符津石山古墳等の石室関連資料は、別の機会に集成したい。

紙幅の関係で、詳細な遺物の検討はできなかったが、最後に土器観察表としてまとめたので参照されたい。以下に、個々の遺跡について、簡単に概要の説明を加えておく。

埴田後山明神1号墳（付第1図）

遺物は、小松市立国府小学校に保管されていた。遺物には墨書の注記が明確に記されており、「発掘場所 国府村字埴田ト343番地畑地、発掘年月 昭和27年12月25日」とある。後山明神2号墳は、昭和29年8月9日の発掘であるので、これが1号墳の出土遺物であることは、ほぼ確実と思われる。地番は、昭和30年代に換地処分を受けた区域にあたり、古い公図による照合は困難であるが、本文第22図のEに該当する公算が大きい。掲載遺物の3のみが、小松市立博物館で後山古墳出土と伝えられているものであるが、国府小保管遺物の注記の一括性から、3は該当しないと考えるべきかもしれない。

念仏林古墳（付第2・3図）

昭和24年7月、小松高等学校地歴班考古学部が実施した縄文遺跡調査により、偶然発見された粘土室の初例である（小松高1949）。位置は、「島町蓑輪地方国有念仏林の南西部の突端」とあるが、明確にはしがたい。近年の念仏林地区の調査成果からみれば、現在念仏林遺跡とされている地点ではなく昭和59～61年に小松市で調査した念仏林南遺跡付近が該当するようである。

本墳出土遺物は、保管状況が最も良好で、ほぼ報告書との照合を成し得た。遺物番号にカッコ書きで記した文字は、報告書の遺物記号に合致する。ただ、保管遺物が1点多く、3・4・5の内いずれかが報告書のル・カに該当すると思われる。

蓑輪塚古墳（付第4・5・6図）

昭和28年8月、小松実業高等学校地歴クラブと石川考古学研究会が調査した（小松実高1954）。古墳は、前方後円墳であるが、栗津病院拡張工事中の調査であって、後円部の半分は削り取られ

ており、また、前方部も工場建設ですでに大部分が消滅した状態であった。粘土室は、前方部と後円部の接合点で検出されており、これが本墳唯一の主体部であった可能性は薄い。後円部では、墳丘断面で凝灰岩の「しっくい」を認めたとされており、凝灰岩の切石積横穴式石室を構築していた可能性もある。

土器は、主体部内南西のコーナー部に集積された状態で出土しているが、後円部西斜面でも須恵器坏4点が検出されたとしており、保管している遺物は両者混在していると思われる。報告書と照合成し得たものは、カッコ書きでその記号を記したが、蓋坏では殆ど不可能であった。ただし、保管状況から、本墳出土の一括遺物と考えて良いものと思われる。

矢田借屋 8 号墳（付第 7 図）

昭和36年7月、小松高等学校地歴クラブが、工場建設で借屋古墳群が破壊されている途中で事前に調査した（小松高1962）。本古墳群最後の調査である。全長約30m強の前方後円墳で、当群内では7号墳も同様の規模・墳形である。墳丘自体の遺存状態は非常に良好であったが、主体部はすでに盗掘により破壊されていた。報告書では、「礫棺（礫床粘土棺とも考えられる）」としているが、「礫と凝灰岩の相当大きな部分」を検出したとされており、切石積横穴式石室を内部主体としていたとも考えられる。そうであれば、江沼地域最古の例に該当することとなる。また、くびれ部に埴輪列を検出している。

遺物の出土状態は不明であるが、土器への注記はしっかりしており、掲載した大部分が本墳の一括遺物と思われる。（P105参照）

矢田借屋 7 号墳（付第 8 図）

昭和30年7月、小松高等学校地歴クラブが、土砂採集事業による破壊の進行中に調査した（小松高1956）。全長約34mの前方後円墳で、西半分が大きく削り取られていたが、主体部を検出している。主体部は「礫棺と粘土棺の折衷様式ともいうべき」と表現されており、河原石積の横穴式石室の可能性が高い。また、埴輪を伴っている。

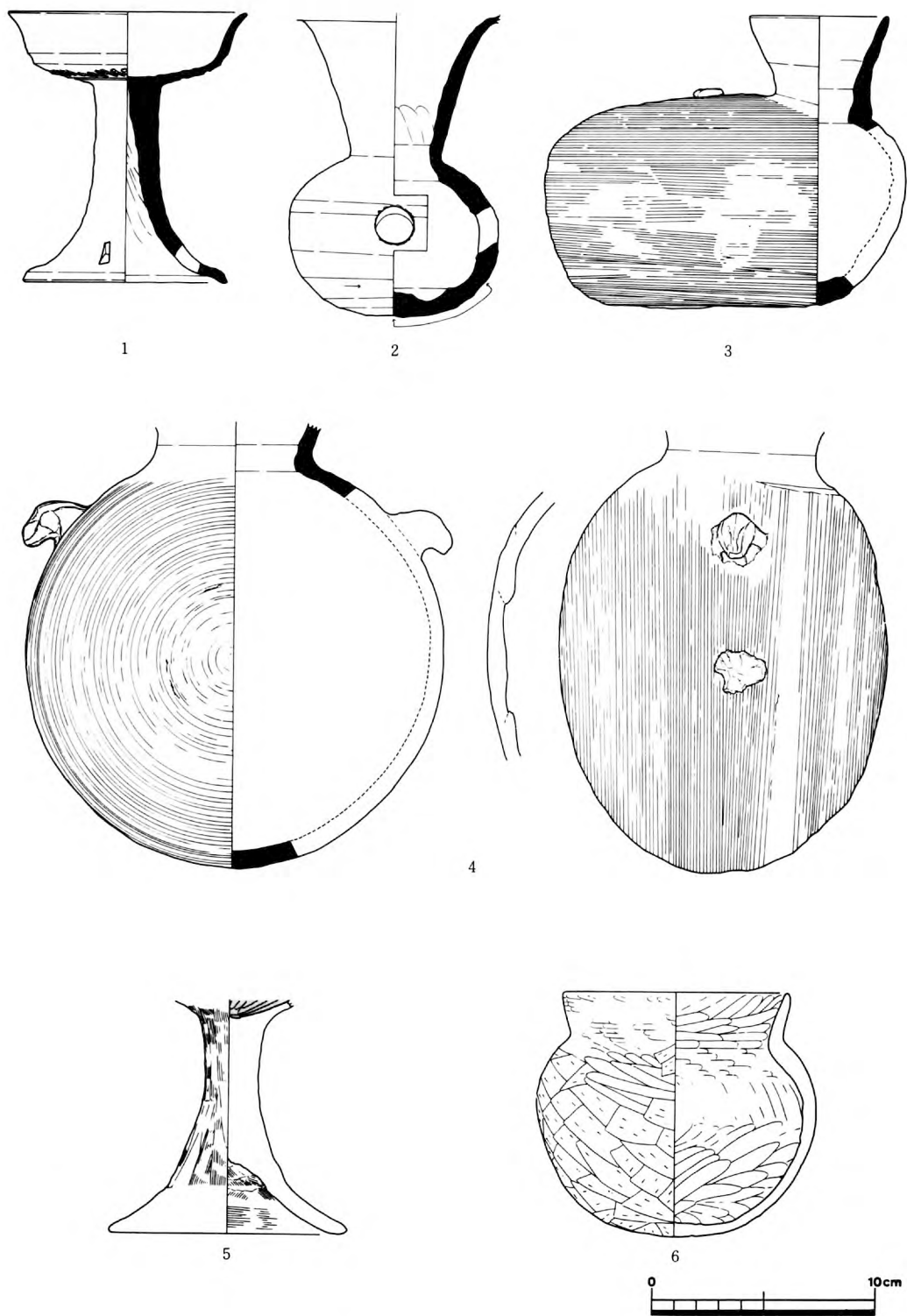
出土遺物は、保管が最も混乱しているもので、明確にできたのは1と2のみである。そのほかの蓋坏類は、4号墳出土遺物から除外されたものを一括したかたちで掲載した。本墳出土の可能性を指摘できる程度のものである。

矢田借屋 4 号墳（付第 9・10図）

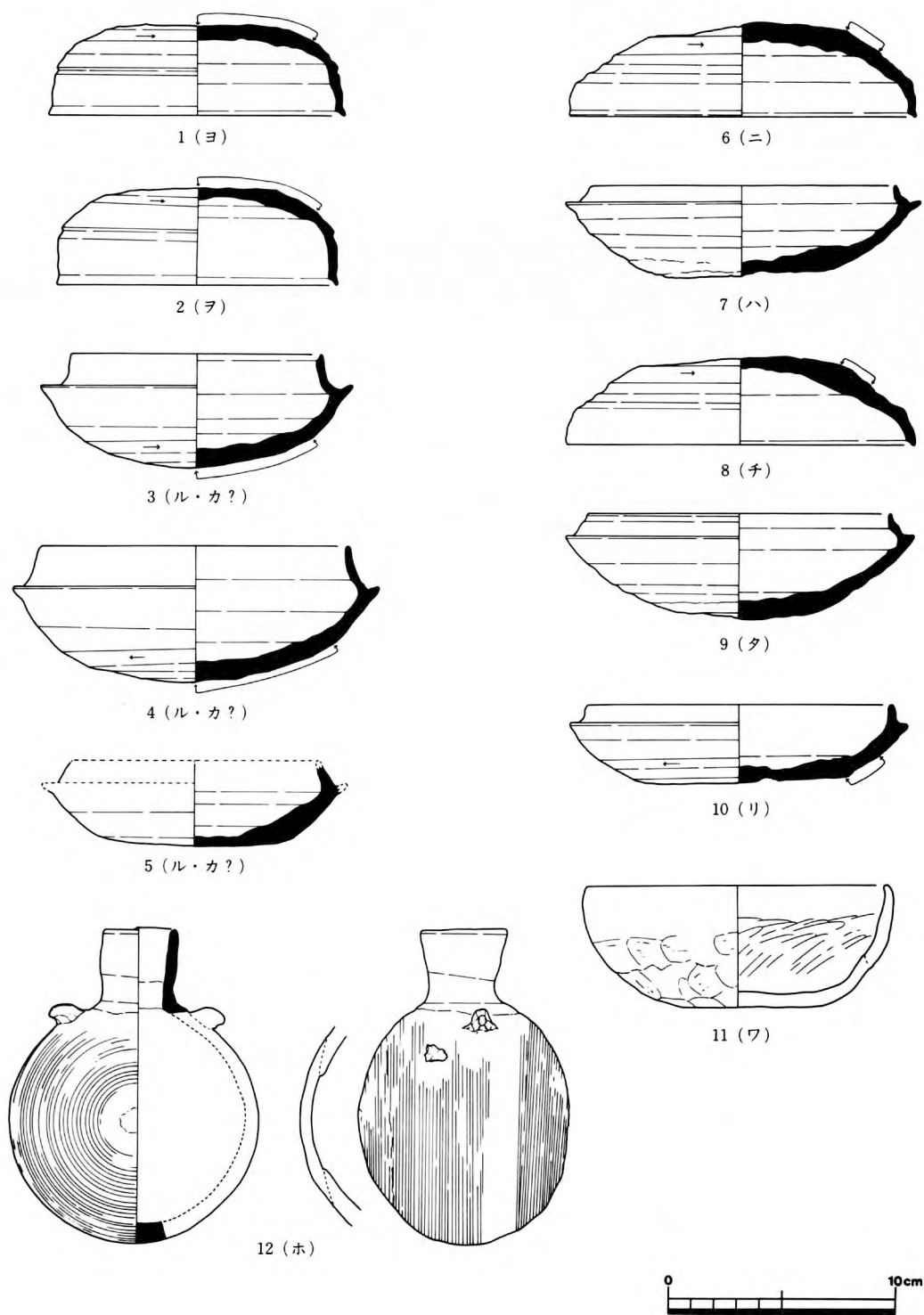
昭和25年8月、小松高等学校地歴クラブ考古学研究班が、粘土室の研究を目的として学術調査を実施した（小松高1951）。調査対象は2号墳と4号墳で、ともに径10m程の円墳である。両方から粘土室を発見したが、2号墳の出土土器は須恵器破片が2点のみであった。従って、掲載したのは、すべて4号墳のものである。

報告書との照合が困難なものも多いが、ほぼ確実と思われるものを抽出して掲載した。

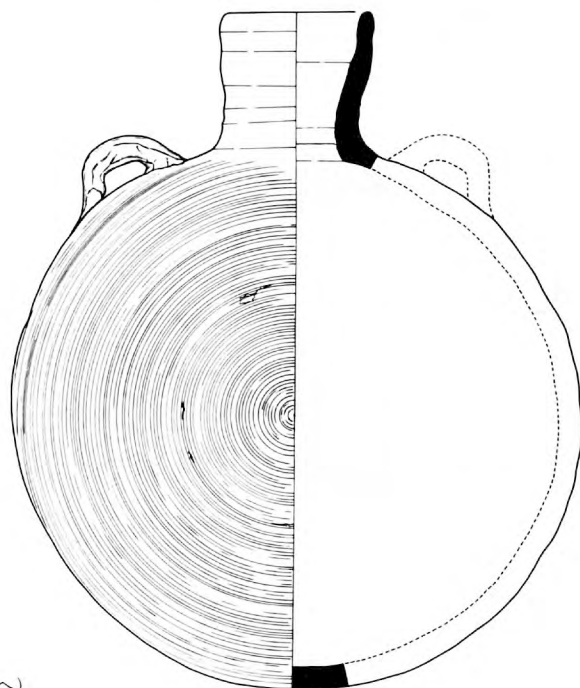
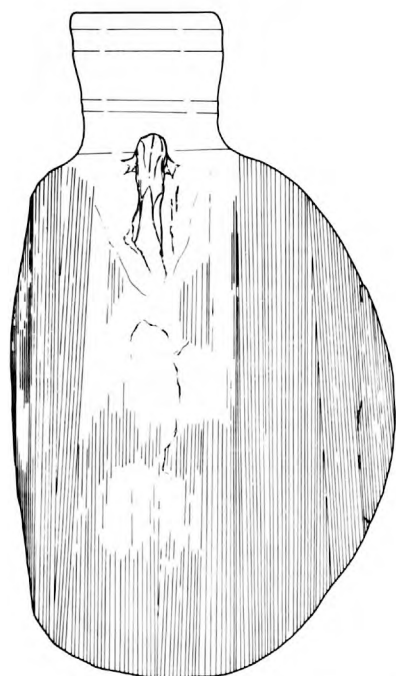
以上である。文献は、本文の引用・参考文献を参照されたい。



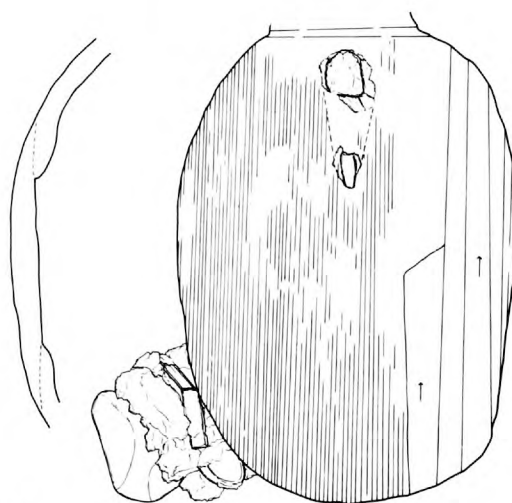
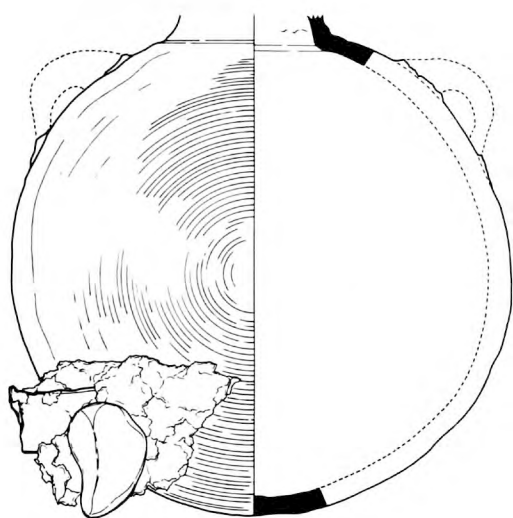
付第1図 埴田後山明神1号墳出土土器実測図 (S=1/3)



付第2図 念仏林古墳出土土器実測図 (S=1/3)



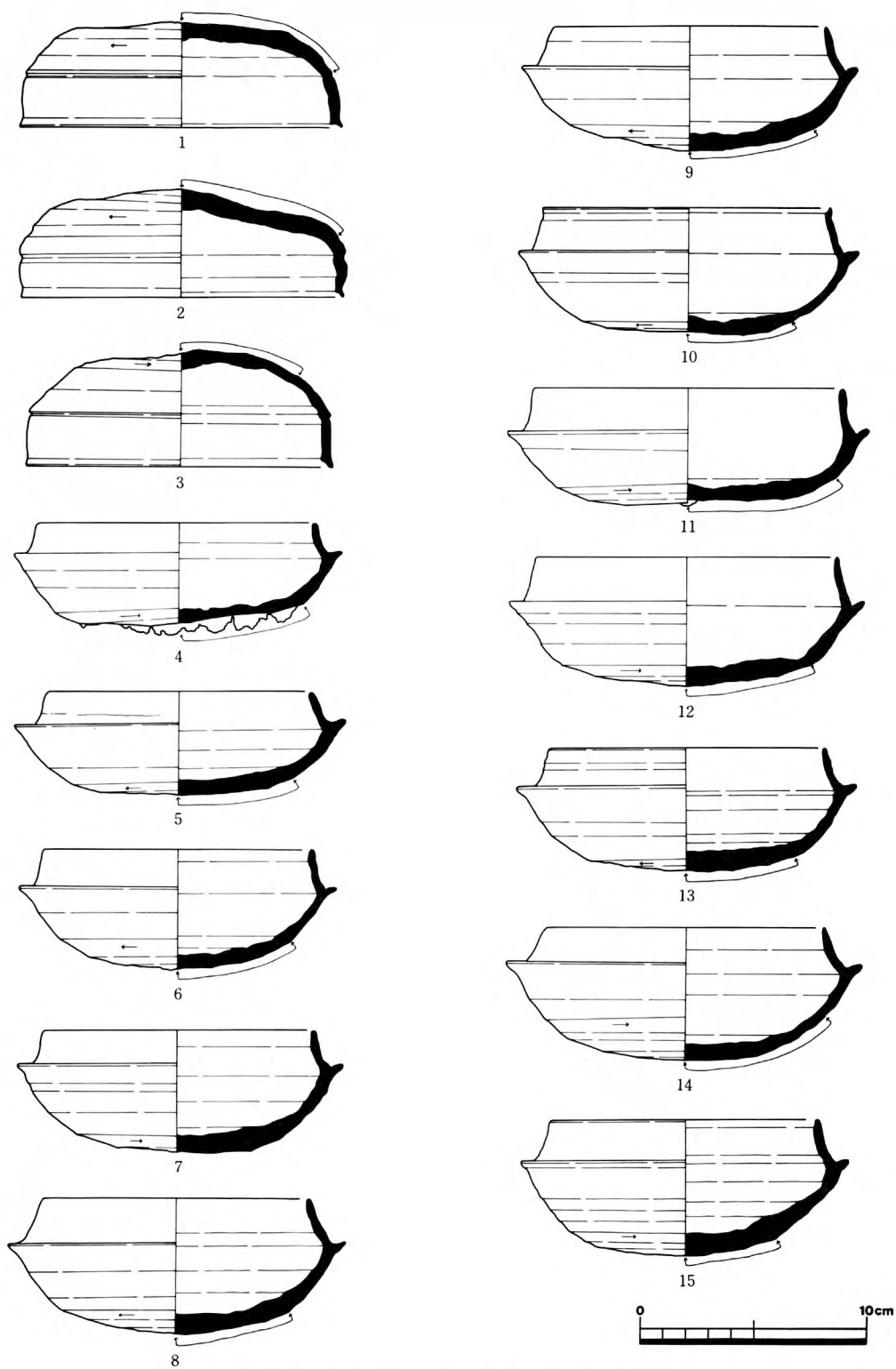
13 (へ)



14 (ト)



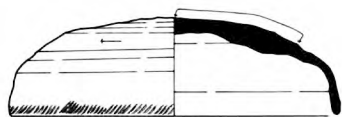
付第3図 念仏林古墳出土土器実測図 ($S = \frac{1}{3}$)



付第4図 蓑輪塚古墳出土土器実測図 ($S=\frac{1}{3}$)



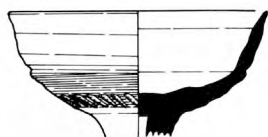
16



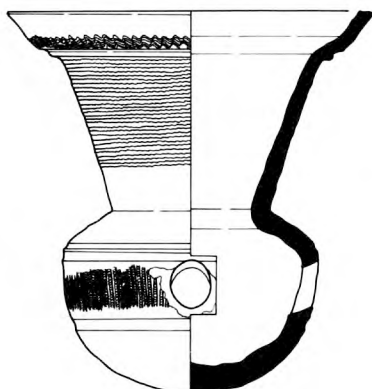
17



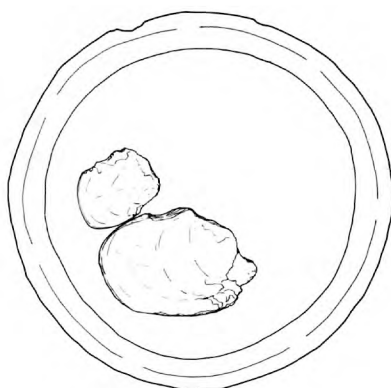
18



20 (ト)



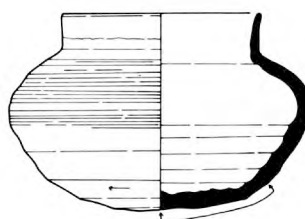
21 (ホ)



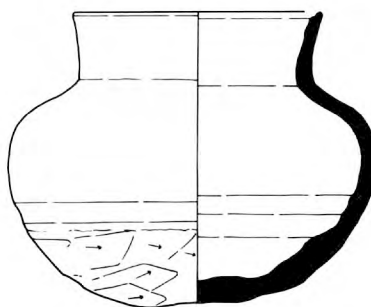
19 (U)



22



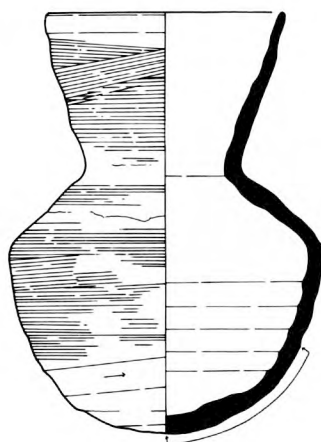
23 (チ)



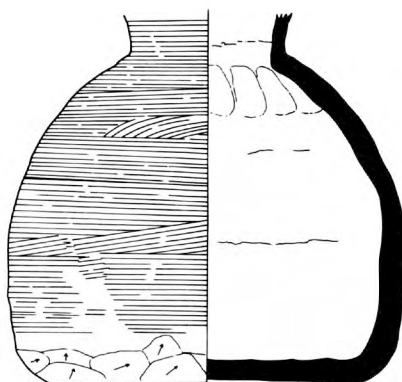
24 (ル)



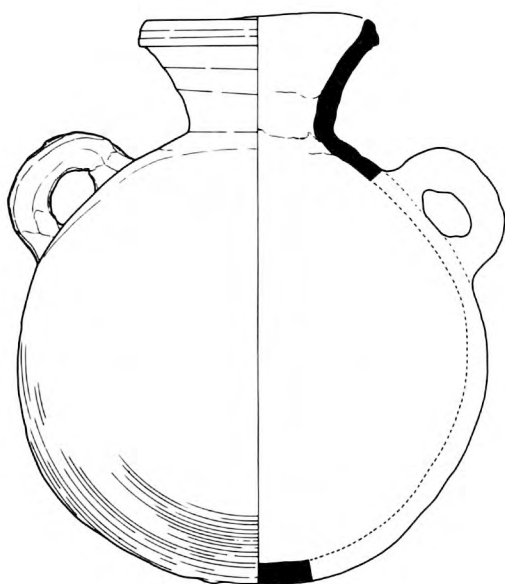
付第 5 図 蓑輪塚古墳出土土器実測図 (S=1/3)



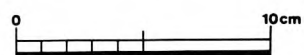
25 (ニ)



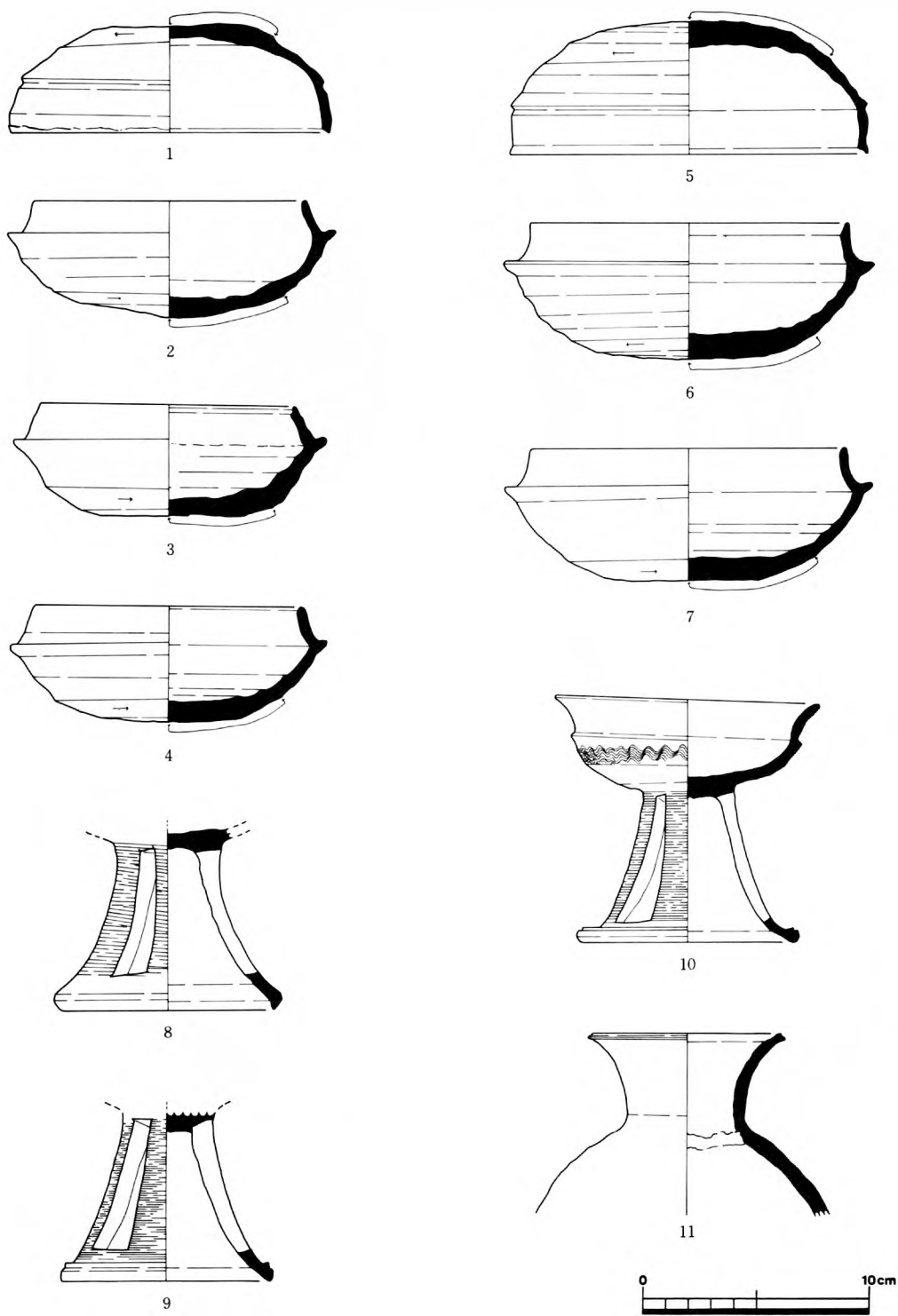
26 (リ)



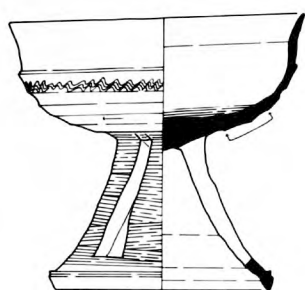
27 (イ)



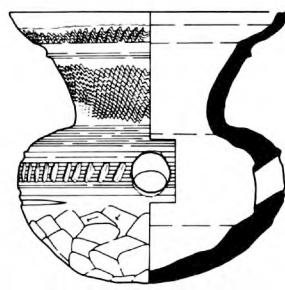
付第 6 図 養輪塚古墳出土土器実測図 (S=1/3)



付第7図 矢田借屋8号墳出土土器実測図 ($S=\frac{1}{3}$)



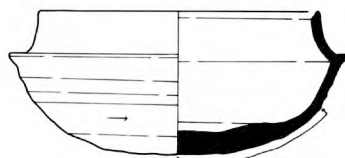
1 (10)



2 (12)



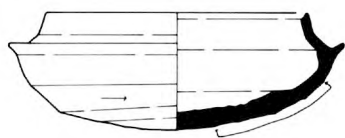
3



8



4



9



5



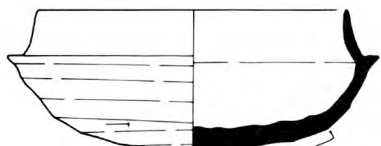
10



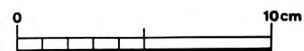
6



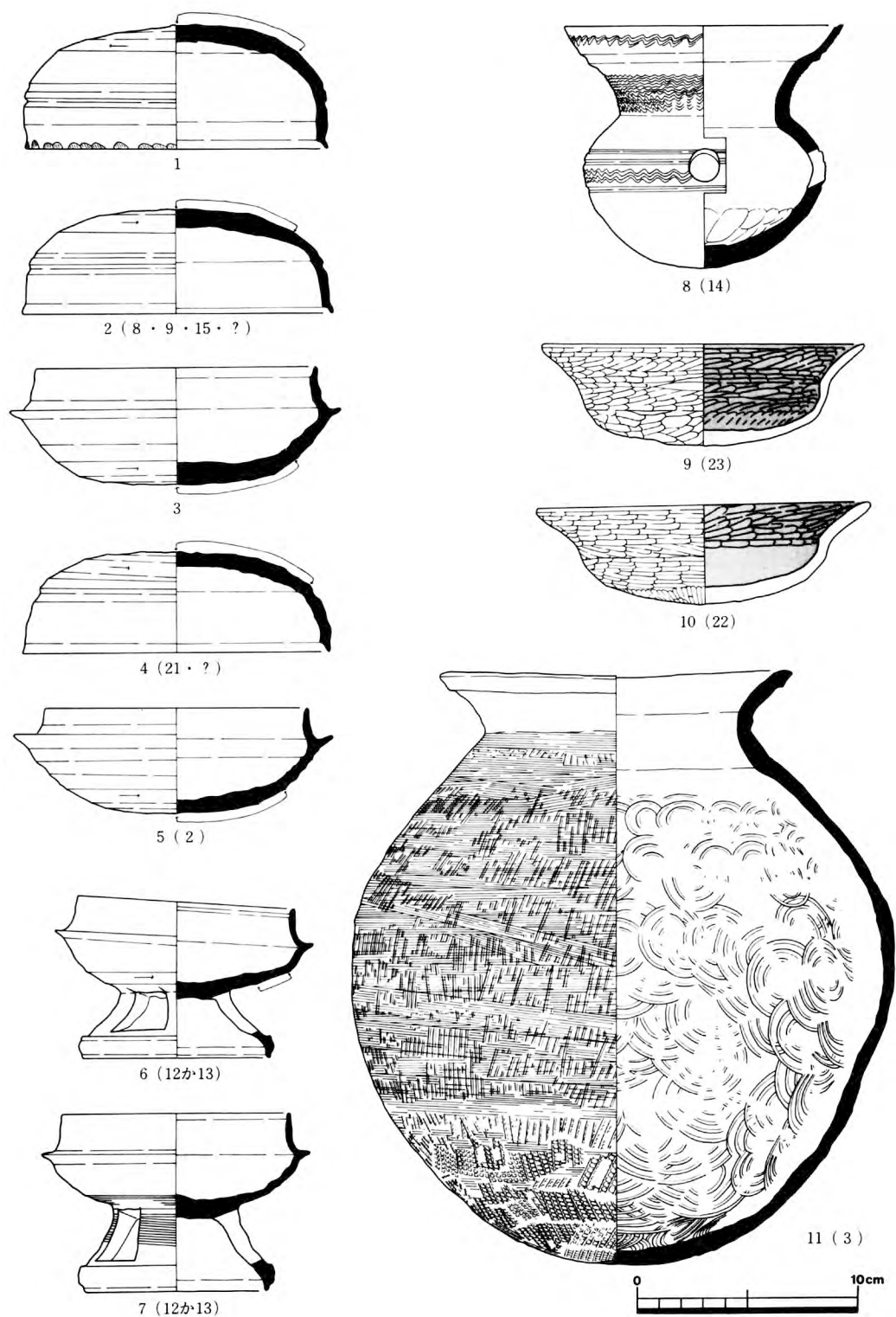
11



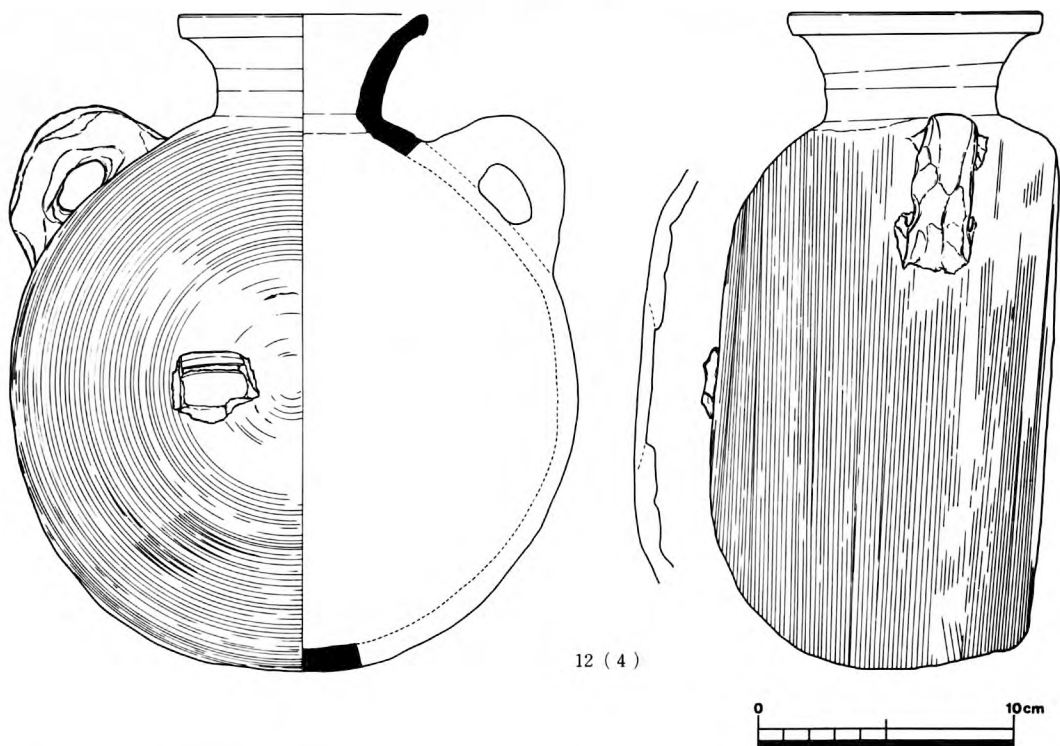
7



付第8図 矢田借屋7号墳出土土器実測図 (S=1/3)

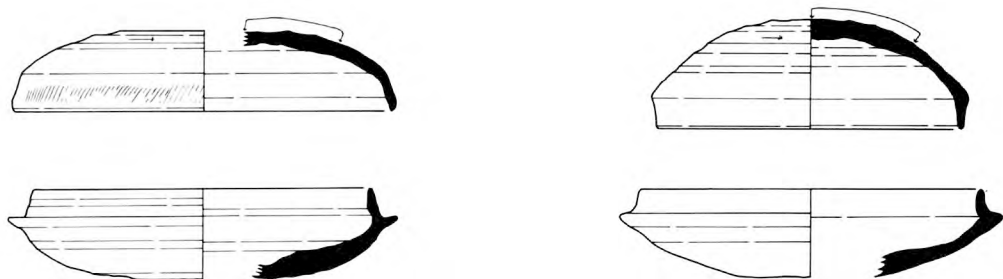


付第9図 矢田借屋4号墳出土土器実測図 (S=1/3)



付第10図 矢田借屋4号墳出土土器実測図 ($S = \frac{1}{3}$)

脱稿後、借屋8号墳出土とされる小破片の保管箱を見つけ、点検したところ、付第7図掲載蓋坏類とは、明らかに時期の異なるものが含まれていることが判明した。借屋8号墳出土遺物の注記は全て「36・8」という年月のみであるので、1号墳付近で採集したとする遺物との混在が予想される。ただ、保管遺物の内容の量比の関係から、8号墳から2時期にわたる遺物が検出されていた公算が大きいと思われる。



矢田借屋8号墳出土土器実測図 ($S = \frac{1}{3}$) 付第7図に追加

土 器 観 察 表

須恵器・土師器等土器色調一覧

須恵器	①	灰白色
	②	やや青味がかかった灰白色
	③	青味がかかった灰白色
	④	青味がかかった灰色
	⑤	灰色
	⑥	暗灰色
	⑦	青灰色
	⑧	やや暗い青灰色
	⑨	暗青灰色
	⑩	赤味がかかった灰白色
	⑪	赤灰褐色
土師器	⑫	黄灰白色
	⑬	淡い黄灰白色
	⑭	やや淡い橙褐色
	⑮	赤褐色

須恵器・土師器等土器胎土一覧

須恵器	①	白色微砂粒を少量含む
	②	白色砂粒を通有量含む
	③	白色砂粒を多量含む
	④	小石・白色砂粒を少量含む
	⑤	小石・白色砂粒を多量に含む粗悪な胎土
	⑥	砂粒をほとんど含まない良質の胎土
	⑦	白色砂粒・小石を微量含むが、良質の胎土
	⑧	微砂粒を少量含む良質の胎土
土師器	⑨	砂粒を少量含む
	⑩	砂粒・小石を多量に含む粗悪な胎土

* 胎土記号に付した a・b は、黒色土粒子の含有を示したもので、極めて多量に含むものを a 比較的多く含むものを b とした。

付第 1 表 後山明神 1 号填出土土器(付第 1 図)

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
1	高 坏	口径10.7 底径 9.2 器高12.1	ヨコナデ	⑦ ③	良好	三方透し 坏部外面に 櫛描刺突文
2	甕		胴部下半に回転 ヘラ削り、他は ヨコナデ	④ ②	良	円孔を穿つ
3	平 瓶	口径 6.1 底径 9.2 器高13.2	体部にカキ目、 他はヨコナデ、 肩部に円盤状粘 土貼付 ナデにより切り 離し痕を消去	③ ⑤ b	良	外面の一部 に自然釉付 着
4	提 瓶		体部にカキ目、 他はヨコナデ、 肩部に鉤形で左 右一對の把手を 付す	① ③ a	良	外面の一部 に自然釉付 着
5	高 坏 (土師器)	底径10.7	裾部にヨコナデ 他はハケ目、坏 部内面にヘラ磨 き	⑭ ⑩	やや 不良	内面黒色処 理
6	小型壺 形土器 (土師器)	口径10.1 器高11.0	体部下半にヘラ 削り、他はヘラ 磨き	⑮ ⑨	やや 良	内面に黒斑

付第 2 表 念仏林古墳出土土器(付第 2・3 図)

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
1	坏 蓋	口径13.0 器高 4.0	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 央に同心円叩き 痕	② ④	やや 不良	

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
2	坏 蓋	口径12.4 器高 4.3	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ	② ②	やや 不良	
3	坏 身	口径11.1 器高 5.1	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	① ①	不良	
4	坏 身	口径13.5 器高 6.0	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	(外① 断③)	不良	
5	坏 身			① ③	不良	
6	坏 蓋	口径15.2 器高 4.2	天井部付近に回 転ヘラ削り、他 はヨコナデ 回転ヘラ削り	③ ③ a	良好	外面に自然 釉付着
7	坏 身	口径13.4 器高 4.1	ヨコナデ 回転ヘラ削り	④ ③	良	
8	坏 蓋	口径15.2 器高 3.9	天井部付近に回 転ヘラ削り、他 はヨコナデ 回転ヘラ削り	③ ③ a	良好	外面に自然 釉付着
9	坏 身	口径13.3 器高 4.7	ヨコナデ 回転ヘラ削り	④ ⑦	良	
10	坏 身	口径13.3 器高 3.5	底部付近に回転 ヘラ削り、他は ヨコナデ 回転ヘラ削り	(内④ 外⑨ ③ b)	良好	
11	埴 (土師器)	口径13.2 器高 5.4	外面は体部下半 にヘラ削り、内 面はヘラ磨き、 他はヨコナデ ナデにより切り 離し痕を消去	⑮ ⑩	やや 良	

番号	器種	法量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
12	小型瓶	口径3.7 器高14.0	体部にカキ目、 他はヨコナデ、 肩部に鉤形で左 右一對の把手を 付す	③ ③a	良好	外面の一部 に自然釉付 着
13	提瓶	口径5.6 器高26.6	体部にカキ目、 他はヨコナデ、 肩部に環状の把 手を付す	⑪ ③	良	外面の一部 に自然釉付 着
14	提瓶		体部にカキ目、 回転ヘラ削り、 他はヨコナデ	④ ⑦	良好	直刀先、小 礫等錆の為 付着

付第3表 菱輪塚古墳出土土器(付第4～6図)

番号	器種	法量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径14.2 器高4.7	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ	④ ②	良	
2	坏蓋	口径14.2 器高4.8	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ	③ ④a	良	外面の一部 に自然釉付 着
3	坏蓋	口径13.5 器高5.2	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 心に同心円叩き 痕	③ ④	良	
4	坏身	口径12.3 器高4.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	① ⑤a	良好	外面に自然 釉付着、底 部に砂塊溶 着
5	坏身	口径11.7 器高4.6	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	① ①	やや 不良	
6	坏身	口径11.8 器高5.4	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	④ ④	良	
7	坏身	口径11.8 器高5.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	③ ②	やや 良	
8	坏身	口径11.7 器高6.0	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	③ ④	やや 不良	
9	坏身	口径12.0 器高5.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	② ④	やや 良	
10	坏身	口径12.7 器高5.6	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	③ ④	良	
11	坏身	口径13.8 器高5.1	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	③ ④a	良好	底部に土器 片溶着
12	坏身	口径13.4 器高5.8	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	③ ④	良好	外面の一部 に自然釉付 着
13	坏身	口径12.2 器高5.4	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	④ ④	良	

番号	器種	法量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
14	坏身	口径12.2 器高5.8	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	② ④b	良好	外面の一部 に自然釉付 着
15	坏身	口径11.7 器高6.1	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	⑦ ② ①b	良	
16	坏身	口径13.0 器高5.2	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	② ②a	良好	外面に自然 釉付着
17	坏蓋	口径12.9 器高3.9	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 心にナデツケ	⑨ ④	良	口縁端部に 刻目文
18	坏身	口径11.3 器高3.9	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 にナデツケ	⑨ ④	良	
19	坏身	口径12.2 器高4.8	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	③ ③b	良好	内に貝二枚 有り
20	高坏	口径10.1	底部付近にカキ 目、他はヨコナ デ	⑥ ③	良好	底部付近に 篋描刺突文
21	罍	口径14.4 器高15.1	ヨコナデ	⑨ ①	良好	円孔を穿つ口 縁部・頸部に 波状文・体部 に櫛刺突文
22	蓋	口径10.6 器高4.5	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ	③ ④	良好	
23	短頸壺	口径7.8 器高7.8	底部に回転ヘラ 削り、肩部にか キ目、他はヨコ ナデ	① ①	良	
24	短頸壺	口径9.6 器高11.7	体部下半にヘラ 削り、他はヨコ ナデ	⑤ ③b	良好	内外面に自 然釉付着
25	壺	口径9.2 器高16.6	底部に回転ヘラ 削り、外面にか キ目、他はヨコ ナデ	② ④	良	
26	壺		底部付近にヘラ 削り、外面にか キ目、他はヨコ ナデにより切り 離し痕を消去	④ ⑦	良	
27	提瓶	口径8.7 器高22.6	体部の一部にか キ目、他はナデ 肩部に環状で左 右一對の把手を 付す	② ⑥	良好	内外面の一 部に自然釉 付着

付第4表 矢田借屋8号墳出土土器(付第7図)

番号	器種	法量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径14.1 器高4.7	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 心に仕上げナデ	⑦ ④	良好	
2	坏身	口径12.0 器高5.7	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	③ ③	やや 不良	

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
3	坏 身	口径11.3 器高 5.0	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	④ ⑥	良好	
4	坏 身	口径11.8 器高 5.2	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	⑧ ④	良好	
5	坏 蓋	口径15.8 器高 5.9	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	(内① 外⑤ ④ a	やや 良	外面の一部 に自然釉付 着
6	坏 身	口径13.9 器高 6.1	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	(内① 外⑥ ④ a	良好	外面の一部 に自然釉付 着
7	坏 身	口径14.0 器高 5.9	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 にナデツケ	① ④ a	やや 良	外面の一部 に自然釉付 着
8	高 坏	底径 9.4	外面にカキ目、 他はヨコナデ	⑨ ③ b	良好	三方透し
9	高 坏	底径 9.1	外面に櫛状工具 によるナデ、他 はヨコナデ	③ ③	良	三方透し
10	高 坏	口径11.7 底径 9.5 器高10.8	脚外面に櫛状工 具によるナデ、 他はヨコナデ	⑨ ③	良	三方透し 坏部外面に 波状文
11	壺 ?	口径 8.3				現物なし

付第5表 矢田借屋7号墳出土土器(付第8図)

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
1	高 坏	口径11.6 底径 8.4 器高10.7	坏底部付近に回 転ヘラ削り、脚 部・内面中央に カキ目、他はヨ コナデ	⑧ ⑦	良好	三方透し 坏部外面に 波状文
2	甗	口径11.0 器高1.7	肩部～体部中央 にカキ目、体部 下半ヘラ削り、 他はヨコナデ	③ ③	やや 良	円孔を穿つ口 縁部・頸部に 波状文・体部に 篦刺突文
3	坏 蓋	口径14.2 器高 4.3	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	① ③	やや 良	
4	坏 身	口径12.8 器高44.5	ヨコナデ ナデにより切り 離し痕を消去	② ②	やや 良	
5	坏 身	口径12.3 器高 5.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	(内① 外④ ⑤	やや 良	
6	坏 身	口径12.7 器高 5.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	① ③ b	不良	
7	坏 身	口径12.1 器高 5.5	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	⑨ ②	良好	
8	坏 身	口径11.0 器高 5.7	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ	④ ②	良	外面の一部 に自然釉付 着

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
9	坏 身	口径10.3 器高 4.7	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き	① ⑦	不良	
10	坏 身	口径12.1 器高 5.8	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕	⑦ ②	良好	外面に自然 釉付着
11	坏 身	口径12.4 器高 5.1	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に仕上げナデ	③ ⑦ b	良好	外面の一部 に自然釉付 着

付第6表 矢田借屋4号墳出土土器(付第9・10図)

番号	器 種	法 量 (cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備 考
1	坏 蓋	口径13.8 器高 5.7	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 央に同心円叩き 痕	② ⑤	良	口縁端部に 篦状工具に よる削り?
2	坏 蓋	口径14.1 器高 4.8	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ、内面中 央に同心円叩き 痕	④ ⑥	やや 良	
3	坏 身	口径12.8 器高 5.3	底部に回転ヘラ 削り、他はヨコ ナデ、内面中央 に同心円叩き痕 後仕上げナデ	③ ⑥	やや 不良	
4	坏 蓋	口径13.9 器高 4.6	天井部に回転ヘ ラ削り、他はヨ コナデ	③ ③	良	
5	坏 身	口径11.8 器高 4.8	底部に回転ヘラ 削り後ナデ、他 はヨコナデ	④ ⑦ b	良好	受部に自然 釉付着及び 蓋重ね焼き の痕跡有り
6	有 蓋 高 坏	口径 9.8 底径 8.4 器高 7.2	坏底部付近に回 転ヘラ削り、他 はヨコナデ	⑦ ⑦	良好	三方透し 受部に蓋重 ね焼きの痕 跡有り
7	有 蓋 高 坏	口径10.2 底径 8.2 器高 8.1	坏底部付近～脚 裾部にカキ目、 他はヨコナデ	(外⑧ 断① ⑥ b	良好	三方透し 内外面に自 然釉付着
8	甗	口径12.6 器高11.0	ヨコナデ、内面 中央に指圧痕	⑤ ③	良	円孔を穿つ 口縁部・頸 部・体部に 波状文
9	鉢 形 土 器 (土師器)	口径14.7 器高 4.6	ヘラ磨き	⑭ ⑨	やや 良	内面に黒色 処理
10	鉢 形 土 器 (土師器)	口径14.9 器高 4.5	ヘラ磨き	⑭ ⑨	やや 良	内面に黒色 処理
11	甗	口径16.0 器高27.1	体部外面平行叩 き後カキ目、内 面同心円叩き後 ナデ、他はヨコ ナデ	① ③	良	
12	提 瓶	口径 9.7 器高25.8	体部外面にカキ 目、他はヨコナ デ、肩部に環状 で左右一対の把 手を付す	② ② a	良好	外面の一部 に自然釉及 び環蓋片付 着